

大学・高専機能強化支援事業  
令和6年度現地調査報告書

大学・高専機能強化支援事業選定委員会

調査日	令和6年12月9日(月)	区分	支援2大学(ハイレベル枠)
選定年度	令和5年度	大学名	筑波大学
設置等組織名	<p>&lt;学士&gt;理工学群工学システム学類/情報学群情報科学類/情報学群情報メディア創成学類</p> <p>&lt;修士&gt;理工情報生命学院情報工学研究群情報理工学位プログラム/理工情報生命学院システム情報工学研究群知能機能システム学位プログラム/人間総合科学学院人間総合科学研究群情報学学位プログラム</p> <p>&lt;博士&gt;理工情報生命学院情報工学研究群情報理工学位プログラム/理工情報生命学院システム情報工学研究群知能機能システム学位プログラム/人間総合科学学院人間総合科学研究群情報学学位プログラム</p>	設置・定員増員年度	<p>&lt;学士&gt;理工学群工学システム学類(R7増員)/情報学群情報科学類(R7増員)/情報学群情報メディア創成学類(R7増員)</p> <p>&lt;修士&gt;理工情報生命学院情報工学研究群情報理工学位プログラム(R6増員)/理工情報生命学院システム情報工学研究群知能機能システム学位プログラム(R6増員)/人間総合科学学院人間総合科学研究群情報学学位プログラム(R6増員)</p> <p>&lt;博士&gt;理工情報生命学院情報工学研究群情報理工学位プログラム(R8増員)/理工情報生命学院システム情報工学研究群知能機能システム学位プログラム(R8増員)/人間総合科学学院人間総合科学研究群情報学学位プログラム(R8増員)</p>
事業計画名	世界・社会をキャンパスとした筑波大学情報系トップ人材育成機能強化事業		

1. 進捗状況の概要
<p>(1) 事業計画の具体的な取組の進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業計画が概ね計画通り進捗していることが確認できた。</li> </ul> <p>(2) 好事例や把握された事業の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学士課程から博士後期課程に至る一貫したMDA教育を拡充する全体構想の中で、本事業により博士前期・後期課程の学生に対して、グローバル・マルチメンターシステム(GMMS)や「修学×キャリア」ハイブリッドシステム(LCHS)、学修サロンハブの形成など特色のある取組を行うことにより、シーズ志向とニーズ志向のいずれも有する高度情報系人材の育成を行う優れた内容となっている。</li> </ul>
2. 指摘事項(留意事項・参考意見)
<p>(参考意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・MDA教育プログラムについて、大学院における他の授業や研究活動の時間が確保できるように、学生にとって過度な負担となっていないか、学生の声を聴きつつ、必要があれば改善しながら、プログラムを充実させることが望まれる。</li> <li>・女子学生の割合が少ないが、女子学生が安心して研究活動を行うことができるように環境の整備等を行うとともに、教員からの一方向的な指導だけではなく、学生の間で意識の醸成が進むような働きかけを通じて、女子学生が増えるような取組を推進していくことが望まれる。</li> <li>・学内外の関係者がメタバースを介して交流する学修サロンハブを設ける等の取組を情報系分野だけではなく、例えば文系の分野においても活用できるような大学全体に波及効果のある事業に発展させていくことに期待したい。</li> <li>・シーズ志向とニーズ志向を両輪として学生の能力を伸ばしていくという意識を研究群全体として持ち、カリキュラムを策定することを推進すると同時に、学生が他の異なる領域の学生等と交流を持つことの重要性を理解して主体的にプログラムに参加できるよう、執行部、教員、学生が話し合いながら課題を把握し、改善につなげていくことが望まれる。</li> <li>・事業期間は長期にわたり人事異動もあることから、計画を進めようとしている執行部と教員との間で連携をしながら、事業全体を改善していくことが望まれる。</li> </ul>